

肝臓腫瘍

●プロフィール（犬）

- ・発生：発生少なく、犬全腫瘍の0.8～2.3%。
- ・年齢：平均10～11歳。
- ・病理組織型：（良性）肝細胞腺腫、胆管腺腫など
（悪性）肝細胞癌、胆管癌、肝カルチノイド、血管肉腫など

発生形式：	腫瘤型	結節型	広汎型
肝細胞癌	53～84%	16～25%	0～19%
胆管癌	37～46%	0～46%	17～54%
神経内分泌腫瘍	0%	33%	67%
肉腫	36%	64%	0%

- * 腫瘤型：大きく孤立性、単葉に限局。
- * 結節型：多病巣性、複数の肝葉。
- * びまん型：多病巣性または融合性病変、実質のびまん性消失、全ての肝葉。

・高い転移性

肝細胞癌：転移率 腫瘤型36.3% 結節型93% 広汎型100%
胆管癌：転移率 犬 87.5%（肝リンパ節、肺、腹膜）、猫 67～87%
肝カルチノイド：転移率 91%

・TNM 分類（病期の進行度）

(T) 原発腫瘍	T0 腫瘍は認められない T1 単一の肝葉に限局した腫瘍 T2 他の肝葉にも浸潤した腫瘍 T3 隣接臓器に浸潤した腫瘍
(N) 所属リンパ節転移の有無	N0 所属リンパ節転移なし N1 所属リンパ節転移あり N2 遠隔リンパ節転移あり
(M) 遠隔転移の有無	M0 遠隔転移なし M1 遠隔転移あり

・治療法：外科手術が第一選択、実質的に腫瘤型のみが手術適応になる。

腫瘍の組織型や発生部位によって予後が変わってくる。

周術期死亡率も高いため、設備が整った手術経験豊富な施設で行う必要がある。

外科手術により、良性では根治が可能であり、悪性でも組織型によってはある程度の予後が期待できる。

・予後

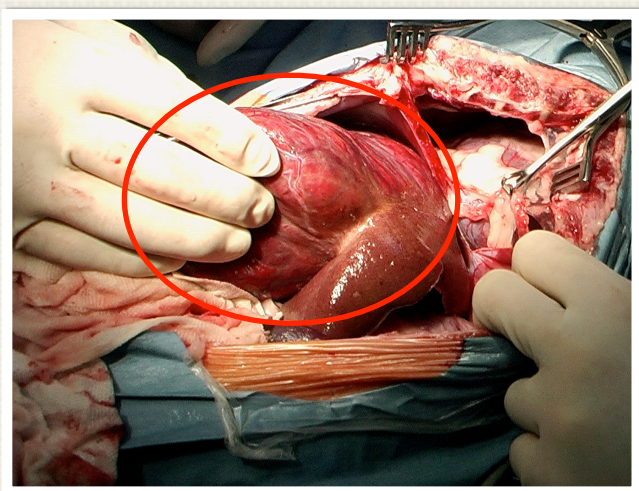
腫瘤型肝細胞癌：外科手術による中央生存期間は48ヶ月

Liptak, JM. Massive hepatocellular carcinoma in dogs: 48 cases (1992-2002). JAVMA 225(8). 1225-1230.

【臨床症例】

* 犬の肝細胞癌

- ・ 症例：キャバリア キングチャールズ スパニエル、8歳1ヶ月齢、避妊雌。
- ・ 経緯：近医にて肝臓腫瘍が判明、CT検査後に当院へ手術依頼。
リンパ節転移所見・遠隔転移所見は見られなかった。
- ・ 症状：一般状態は良好。
- ・ 臨床診断：外側左葉の肝臓腫瘍。



術中所見



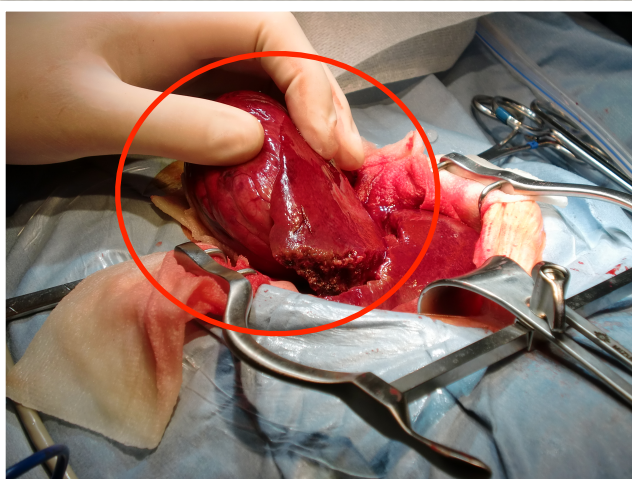
摘出した肝臓腫瘍

- ・ 治療：外科手術による外側左葉の肝葉切除術。
- ・ 確定診断：肝細胞癌 T1 N0 M0 マージンクリアー 脈管内浸潤なし。
- ・ 経過：術後、定期検査のみ。
術後2年7ヶ月に慢性心不全により死亡、最後まで再発・転移なし。

【臨床症例】

* 犬の肝細胞腺腫

- ・ 症例：雑種小型犬、12歳5ヶ月齢、去勢雄。
- ・ 主訴：健康診断。
- ・ 症状：一般状態は良好。
- ・ 検査：肝臓右葉領域に孤立性腫瘤病変。
リンパ節転移所見・遠隔転移所見は見られなかった。
- ・ 臨床診断：内側右葉の肝臓腫瘍。



術中所見



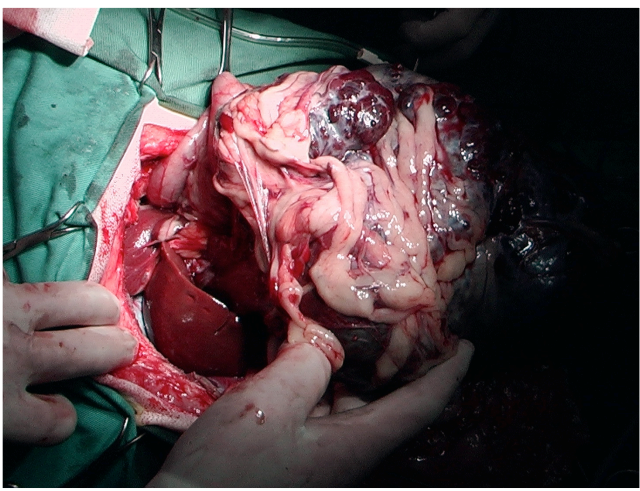
摘出した肝臓腫瘍

- ・ 治療：外科手術による内側右葉の肝葉部分切除術。
- ・ 確定診断：肝細胞腺腫 マージンクリアー。
- ・ 経過：術後、定期検査のみ。根治。

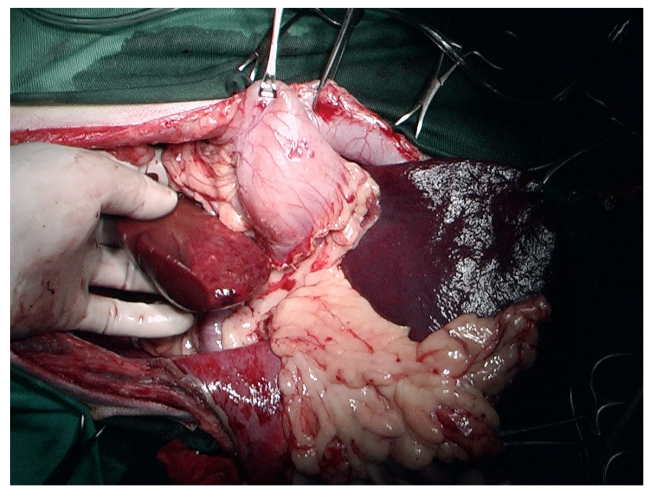
【臨床症例】

* 犬の肝細胞癌

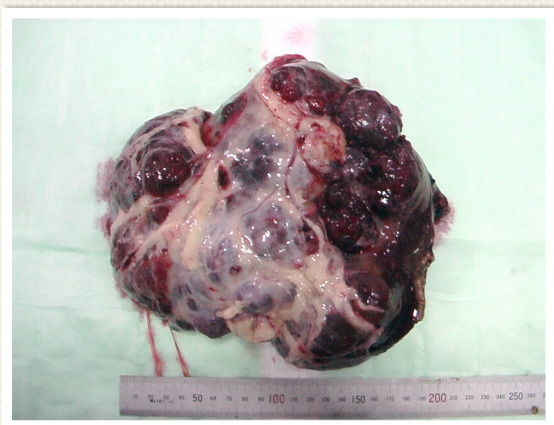
- ・ 症例：雑種中型犬、13歳齢、雄。
- ・ 主訴：腹囲膨満。
- ・ 症状：一般状態は良好。
- ・ 検査：腹部中央に肝臓由来と思われる巨大腫瘤。リンパ節転移所見・遠隔転移所見は見られなかった。
- ・ 臨床診断：肝臓腫瘍。



尾状葉に発生した巨大肝臓腫瘍



内側左葉の肝臓腫瘍



摘出した尾状葉腫瘍



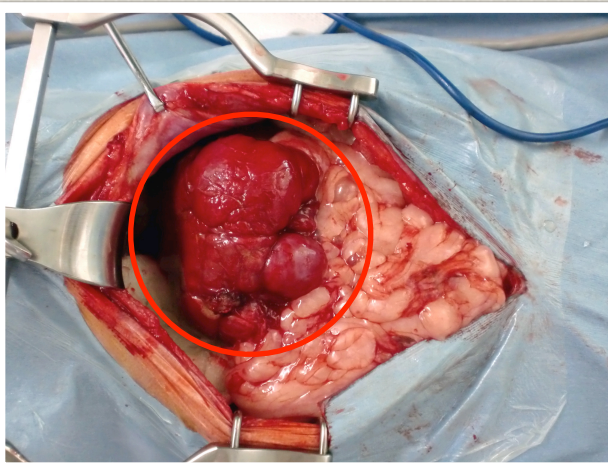
摘出した内側左葉腫瘍

- ・ 治療：外科手術による尾状葉肝葉切除術と内側左葉の肝葉部分切除術。
- ・ 確定診断：尾状葉 肝細胞癌 T1 N0 M0 マージンクリアー 脈管内浸潤なし。
内側左葉 結節性過形成
- ・ 経過：術後、定期検査のみ。

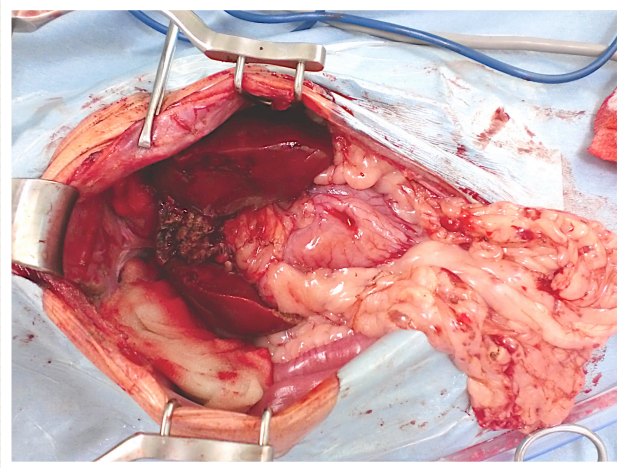
【臨床症例】

* 犬の肝細胞癌

- ・ 症例：ミニチュアダックスフンド、9歳5ヶ月齢、雌。
- ・ 主訴：食欲不振、嘔吐、活動性低下。
- ・ 症状：一般状態は良好。
- ・ 検査：腹部中央に肝臓由来と思われる腫瘍と血様腹水が認められた。
- ・ 臨床診断：肝臓腫瘍。



内側左葉に発生した肝臓腫瘍



切除後



摘出した内側左葉腫瘍



摘出した内側左葉腫瘍

- ・ 治療：外科手術による内側左葉の肝葉切除術。
- ・ 確定診断：肝細胞癌 T1 N0 M0 マージンクリアー 脈管内浸潤なし。
- ・ 経過：術後、定期検査のみ。
2016年1月現在、術後5年4ヶ月経過するが再発・転移なし。